

鎌ヶ谷市政策評価表

政策の名称	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	政策担当マネージャー	健康福祉部長
重点政策該当有無	○重点政策	マネージャー氏名	望月 忠

I 改革・改善内容(=政策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	増加する扶助費に対応するため、引き続き行財政改革による財源の確保を図っていきます。また、少子高齢化に伴う政策を実現するため、費用対効果や事業の優先度を検証します。	③改革・改善内容	事業の優先度を考えながら、子育て世代が安心して子どもを産み育てられること、高齢者、障がい者が市民とともに地域で支え合いながら生活できることなど福祉社会をつくっていきます。このため、行財政改革に取り組み、必要な財源を確保していきます。
②①に基づく取り組み結果	行財政改革の継続により、財源を確保しつつ、高齢者・障がい者福祉施策や子育て支援施策を拡充することができました。		

II 政策の目的・概要

①目的	対象	すべての市民	意図(対象をどうするのか)	すべての市民が健康で明るく、助け合いながら安心して暮らせるようにします。
②政策の概要	すべての市民がいつまでも明るく健康で暮らせるように、地域で支え合う福祉社会を形成し、いきいきとした高齢社会の形成、健やかに子どもが育つ児童福祉を推進し、安心して暮らせる社会保障を充実し、健康を支える保健医療の充実などの施策を行い、健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成32年度まで人口は増加傾向にあるものの、少子化、高齢化が進んでいくことから、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉などの推進や保健医療の充実など福祉の充実が求められています。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成24～25年度の施策の成果	社会保障の実施、地域での支え合い活動やバリアフリー化の推進、介護サービスの充実、待機児童対策、子ども医療費制度の充実、つどいの広場の拡充など、福祉環境満足度の向上が図られました。(平成20年度12.5%)						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	目標値(27年度)
	1	福祉環境満足度(市民意識調査)	%	—	—	15.2	13.0
	2	ボランティア登録団体会員数	人	1,529	1,421	1,397	1,550
	3	65歳以上要介護認定率	%	13.5	13.8	13.6	14.5
	4	趣味や習い事などを行っている高齢者の割合(高齢者アンケート)	%	—	—	61.5	増加
	5	合計特殊出生率	人	1.33	1.38	集計中	1.34
	6	保育所待機児童数	人	51	41	39	0
	7	就学前人口に対する保育所入所率	%	15.5	16.3	17.2	16.5
	8	障がい者手帳所持者のうち施設入所者を除いた割合	%	98.2	98.5	98.2	98.4
	9	訪問系サービス利用者数	人	97	121	90	90
	10	日中系サービス利用者数	人	354	455	291	360
	11	平均寿命(男)	歳	—	—	—	延伸
	12	平均寿命(女)	歳	—	—	—	延伸
	13	自分の健康に満足している率(市民健康意識調査)	%	—	—	55.4	53.0
14	乳児死亡率(出生千対)	人	0	0	集計中	減少	
③政策の事業費	平成24年度決算	平成25年度決算	市民一人あたり事業費(25年度決算)		平成26年度予算		
事業費(千円)	28,376,958	29,164,069	268		31,336,268		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	医療・介護・福祉への事業費は増加傾向にあり、その中でも社会保障経費、待機児童対策などの子育て支援経費など確保していく必要があります。またこの予算の確保とともに、福祉を行う人材の確保も行っていく必要があります。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	各成果指標は目標に達したものもありますが、待機児童の解消など引き続き取り組んでいくものがあります。今後も成果指標の向上に取り組んでまいります。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する施策	施策3 健やかに子どもが育つ児童福祉の推進		
④上記方向性の説明	少子高齢化の進展によりまして社会福祉、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、社会保障など福祉に対する需要は益々増えていきます。すべての市民が支え合い、健康に暮らせるように、国・県での福祉制度の改正等対応し、活力ある鎌ヶ谷市としていく必要があります。		